



理念

- 1、乳幼児期の子どもの最善の利益を守る保育園
- 2、親・地域の多様な子育ての要求を受け止め、
助ける保育園
- 3、すべての子どもたちが健やかに育ち、すべての
ものの生命を大切に、平和な社会をめざす保育園

めざす子ども像

- 1、心身ともに健康な子ども
- 2、自分の要求を持ち、豊かに表現し
実現しようとする子ども
- 3、自分を大切に、仲間を大切にする子ども

保育目標

- 1、子どもの人格を尊重し、子どもの一人ひとりの発達を援助する
- 2、保護者と子育てを共同する
- 3、保育園の社会的役割を果たす

わたしが大きくなったら

アルバロ・ユング

お母さん、私が大きくなったら

長いはしごをつくるでしょう

それで星をとり空までのぼるでしょう

下をみれば、宇宙が小さくまばたいてみえるでしょう

わたしのポケットのあるだけを

ほつき星、流れ星、いろんな星でいっぱいにするでしょう

学校の仲間たちに

それを両手でつかめるだけわけてあげるでしょう

お母さん、あなたは月をとって帰るでしょう

大きな満月を両手でかかえて

家のなかには月の光で千コの電球より

もっと明るくなるでしょう



朝夕の冷え込みが厳しく身にこたえる季節を迎えています。それでも子どもたちは毎日元気に園庭で走り回っています。

私が5才、妹が3才の頃、小さな町でしたが劇場がありそこでお年寄りを祝う会がありました。両親と一緒に舞踊や民謡を聞き、弁当を食べ、食べた後は演目にも飽きてしまい眠くなったのを覚えています。そこで、母が妹を父が私をおぶっての帰宅でした。私は母におぶって欲しかったこと、そして父の背中が筋肉質で固くて、酒臭かったこと、なぜかその時のことを時々思い出します。今50年以上過ぎてもそのことが親の愛情だと感じています。

小鳥の森の子ども達にとっても似たような経験があるのではないのでしょうか。12月から1月にかけては、クリスマスやお正月などいろんなイベントがあり家族で過ごすことも多くあります。仕事と子育ての大変な中で子どもの心に残るような愛情を感じる体験があるといいなあと思いました。

12月の予定

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12 健康診断	13 お話し会(幼児)※	14	15
16	17 わらべうた	18	19 身体測定	20 日女大のお話し会(幼児)※ 体験保育※	21	22
23 30	24	25	26 健康診断	27	28 保育園休日 (1月3日まで)	29

※13日(金) 幼児 お話し会 幼児の部屋 16:30～

カメラマンの撮影が入ります(乳児クラスも日常写真の撮影をします)

※20日(金) 幼児 日本女子体育大学の学生さんがうたやお話しを披露してくれます

11:00～11:30 幼児の部屋

体験保育 10:30～11:30 幼児の子ども達と一緒にお話しを見ます

※12月28日(土)～1月3日(木) 年末、年始休みで保育園は休園です

お知らせ

*東京都より「児童虐待を防止するためのLINE相談周知カード」が配布されました。児童相談体制の強化に向けた取り組みの一つとして実施しているそうです。園だよりと一緒に配布しますので、活用してください。

また、東京都より「ハローキティのおしえて！防サイくん」という冊子が届いたので、みなさんに配布しました。是非この機会にご家庭でも防災についてお子さんとお話しをするきっかけに活用してみてください。

バザーへのご協力ありがとうございました！

先月の台風の影響で世田谷区の尾山台保育園に甚大な被害があり、調理室が全く使えないためケータリングで賄ったり、1階が使えないため5歳児だけ別の保育園に通っているそうです。全面的に修繕をすることになり、その為の費用が2千万～3千万円足りない状況だそうです。そこで少しでも協力しようということになりみたか小鳥の森保育園のバザーが台風の影響で中止になった為、その際に集めた品物を急遽持ってきてもらいバザーを行いました。みなさんのご協力のおかげで14500円の利益がありました。本日、尾山台保育園の園長に渡します。

ある日のエピソードより。。。

最近のひよこ組は、園庭やお散歩にも出掛けられるようになり、外で自然に触れるのを楽しんでいます。喃語や語彙も増え、友達や大人の名前も言えるようになってきました。ハイハイだった子たちは、つかまり立ちや歩行が一段と安定してきています。

ある日のことです。『車を上手く連結出来ず、K君が床に座りこみ泣いていました。それを見たS君が、駆け寄ってきて頭をなでてくれました。するとK君は泣き止み、また遊び始めることができました。』

その数日後…。『登園時に、珍しくS君が大泣きしていました。大人が声を掛けても泣き止まずにいたのですが、それを見ていたK君が、S君の頭をなでに来てくれました。隣にいたKちゃんも、Mちゃんも、一緒になって頭をなでてくれました。すると、大泣きだったS君はピタッと泣き止み、気持ちを切り替えることができました。』

周りの大人や友達にしてもらって嬉しかったことを覚えていたのかな…と感じ、まだ言葉を話せないながらも、泣いている友達を気に掛けることができる子どもたちの姿に感心しました。子どもたちの姿から、気持ちを受け止める、共感することの大切さを改めて感じました。

ひよこ組保育士



異年齢クラスでのかかわり

4月になると2歳児が幼児クラスに進級します。

4月当初は、新『すすめ』にとっては、部屋も広くなり大きなお兄さんお姉さんがたくさんいて、遊具もいっぱいあるけれど、なんとなく落ち着かなくて部屋の片隅に遊具を運びまとまって遊ぶ姿が毎年のように見られます。幼児も1つずつ進級し、「すすめ（3歳）」が『かもめ』に、「かもめ（4歳）」が『たか』になり呼び名が変わった事が嬉しくもあり、ちょっぴり気恥ずかしさもあります。

「小さい子には優しくする」「困っていたら助けてあげる」という事は頭ではわかっているものの新しい『すすめ』をどのように受けいれたらよいのか戸惑う様子がみられます。

幼児の部屋ではルールや道具の使い方などの決まりごとがたくさんあるのですが、それをまだ全部は理解できなくて自分のやりたいようにやってしまう『すすめ』に強い口調で「ダメだよ!」「〇〇君が勝手にやってる～」と言って泣かせてしまうことや、『すすめ』に「仲間に入れて」と言われても「すすめさん、ルール守らないからいたくないんだよ」と断わる姿もしばしばあります。

そんなギクシャクした関係も1カ月もたつと、名前を覚えお互いが分かり始めます。日々の生活の中でできないを手伝ってあげたり、泣いている子の話を聞いてあげたり、わらべうたで触れ合う中で共感したり、一緒になって遊ぶようになります。そして、『すすめ』も大きい子との遊びの中でたくさんの刺激を受け、同じようにやってみたいという欲求からいろいろ学んでいくようです。

今年度の『すすめ』も今の時期になり大きい子達がやっているように自分たちで仲間を集め、鬼決めをし、鬼ごっこを始めるようになりました。少し難しい工作やブロックでのロボット・虫・恐竜の形作りを「手伝って」「同じのを作って」と『かもめ』『たか』に頼めるようになりました。頼まれた4・5歳児もそのような関わりの中で自信がうまれます。同じ学年の中では経験できないような年下の子の気持ちを受け止め、自分の持っている力を発揮し、生き生きと瞳を輝かせる場面がたくさんあります。

たてわり保育の良さって、こういうところだなと感じつつ、子どもたちそれぞれの成長を見守っています。

フリー保育士